

## 様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

## （1）大学・学科の設置理念

## ①大学

学校法人帝京大学は、「努力をすべての基とし偏見を排し、幅広い知識を身につけ、国際的視野に立って判断ができ、実学を通して創造力および人間味豊かな専門性ある人材の養成を目的とする」という建学の精神に基づき、この理想を高等教育の場を通して実現するために1966年帝京大学を設立した。

建学の精神に盛り込まれた理想を実現するに当たり、帝京大学は、学生が持つべき行動指針として「自ら問題意識をもって行動し、それによってもたらされる結果に対しては、自分で責任を持つという生き方」をあらわす教育理念、すなわち、「自ら立ち自ら律する人間であることを期待する言葉」である「自分流」をかかげ、本学教員が教育を行うに当たって、また、学生が学ぶに当たっての根本理念としてこの「自分流」を位置づけている。

建学の精神に則った人材を育成するためには、意志と知恵と判断力、そして精神的包容力、すなわち知・情・意をバランスよく醸成することが肝要である。そのための具体的な教育指針として「実践を通して知識と論理的な思考を身につける実学」、「異文化を学習し理解し体験する国際性」、「必要な知識・技術に偏ることなく幅広く学ぶ開放性」を掲げている。これら三つの言葉は、教育の内容とその方法を規定するものであり、教育理念を豊かに実現するための必要条件といえるものである。

## ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

初等教育学科は「現代的な課題に対応した教育のあり方を学び、教育の現場を担う人材育成」を目標として掲げている。これを受け本学科においては「教員免許をはじめとする資格取得のための基礎的な学びを進めながら、現代的な教育課題に対応した教育のあり方や方法について理論的・実践的に修得した、専門的知識と技能を備え、教育の現場を担う人材」育成を目標と定めてきた。具体的には小学校教諭一種免許状取得を軸として、学校という組織の一員として貢献できる小学校教員の養成を主たる目標とした。この目標に応じ、学科創設以来、毎年100名以上（臨時的任用職員を含む）の学生を小学校教諭として送り出している。

しかしながら、複雑化・多様化している社会や保護者のニーズに応え、多様な育ちをしている児童・生徒の指導者という学校現場の要請に応えるためには、幅広い視野を持ちながら教科専門性を兼ね備えた実践的な指導力量を育成することが求められる。こうした人材を今日の学校に送り出す必要性を強く感じているところである。

## （2）教員養成の目標・計画

## ①大学

本学の教員養成においては、建学の精神を基底に、大学にふさわしい「専門的知識」の修得に加え、「教職にふさわしい専門性と技量を有する教員の養成」、「理論と実践を融合し、新卒教員であっても最低限必要な資質能力—授業実践力及び学級経営力などの即戦力を身につけた教員の養成」を基本理念としている。

「養成段階で修得すべき教員に最低限必要な資質能力」とは、例えば令和4年3月に「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会」で提案された5つの柱—①教職に必要な素養、②学習指導、③生徒指導、④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応、⑤ICT や情報・教育データの利活用—の力量であり、加えて、「チーム学校」に組織的・協働的に取り組む力である。本学においては、養成段階であることを踏まえ、これらの資質能力の基礎的素養・基本的スキルを育成していくことを目指している。

これらの優れた資質を持ちつつ、人間味豊かな専門性のある教員の養成を通して21世紀の知識基盤社会に貢献することが、本学の教員養成に対する基本方針である。

## ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

学科の設置理念と教員養成の実績を背景に、初等中等教育を幅広い視点から見据えるとともに、教科専門性を活かし、多様な校種で活躍できる教員養成を目指す。

本学科においては、

- ・幼小連携に対応する幼児教育に関する専門性（幼稚園教諭一種免許状）
- ・通常学級に一定数在籍すると言われる特別な教育的ニーズのある子どもの指導に関する専門性（特別支援学校教諭一種免許状）
- ・多文化・多言語の子どもの指導に資する教育（日本語教員養成講座）
- ・PISA型学力の育成が求められる学校教育を展開するために必要な言語力育成に関する専門性（司書教諭、図書館司書）

等、複雑化・多様化する教育課題に対応可能な基盤を備えているが、これに加え「教科専門性」を有し、中学・高校においても活躍可能な教員養成を目指す。

その際、初期の目標である「『小学校教諭一種免許状』取得を軸として、学校という組織の一員として貢献できる小学校教員の養成」は変わらずに主たる目標として設定する。その資質・能力を基盤としつつ、中・高免許での教科専門性の涵養、育成を目標として、中高両免許の取得を行う。

## <養成の計画>

多様で広域な専門性が求められる小学校教諭としての専門性を高めるために、必要な教職・教科等、教職の基盤となる知識を獲得し専門性を高める科目を基盤に、実践的な指導力量の形成に関する諸科目と、その基盤となる諸科学に関する専門性を高めるような科目を配置し、教育課程・指導体制の充実を図る。こうした小学校教員養成の基盤を前提とし、より広い視野で学校教育を考察し、教科専門性を持った教員養成を行うという趣旨で中高教員の養成を実施する。

- 教科に関する専門性を育成するためにその基礎として「国語科教育基礎研究」「社会科教育基礎研究」「算数科教育基礎研究」「理科教育基礎研究」「音楽実技」「体育実技」等の科目を設けている。
- これらの基礎的な知識の上に各教科・領域・時間に関する概論科目と指導法に関する科目を設置している。
- 中高免許取得希望者については、1年前期修了後に中高免許取得ガイダンスを実施する。また、2年次より免許種ごとにコースを設定、メンター教員を当てる。メンター教員は学修の進捗を把握するため、Semesterごとに最初と最後にグループ全員を集めた特別授業を実施する。また必要に応じて個別の面接を担当する。実践的な指導力量を高めるために、小学校においては3年後期に教育実習を実施し、その成果や課題を踏まえて4年次に中高の教育実習を実施する。
- 特に、心の教育の必要性が強調される中、道徳教育に関して概論・指導法・特論の科目を設置しているほか、総合的な学習の時間の指導や英語活動が可能となるように、概論・指導法・特論科目を設置している。
- 教育をめぐる現代的な教育課題に対応できるよう、初等教育の本質と初等教育をめぐる現代的課題、学校という組織、子ども、教師・学校長等の管理職・教育行政機関等の実態と求められる役割等の実態を把握する「初等教育論」、授業での高い指導力が求められる中で指導力形成の基礎

となる「授業研究論」、初等教員は初任者であっても学級担任を持つことから学級集団を組織するために必要な事項について学ぶ「学級経営論」等を設け、初等教育に貢献できる資質・能力を育成する。

- 上記に加えて、学校教育が直面している様々な現代的教育課題の解決が可能となるよう、専門性をこれまで以上に高めるために「現代教育課題系科目」を学び課題に対応可能な知識を獲得し、必要な資質・能力を形成する。

### (3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

#### ■「中学校教諭一種免許状（国語）」

学習指導要領の改訂により、教師が何を教えるかという観点から移行して、児童生徒が学びを通してどのような力をつけるのか、その力をどのように活用するのかという観点が浮き彫りにされた。特に国語科においては、「自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること」を「言葉による見方・考え方」と位置づけている。

さらに、国語を通して「学びに向かう力、人間性等」の涵養が求められ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が喫緊の課題となっている。

このような社会の変化と教育的要請に対して、初等教育学科は、中学校国語科教諭としての資質と指導力を育成するために、研究発表や討議をはじめ、対話を重視した活発な言語活動による主体的な深い学びの場を広げ、生徒の日本語での発信力強化、アウトプットする統合型の言語活動を推進することが可能な国語教員を養成する。

#### ■「高等学校教諭一種免許状（国語）」

本課程では、日本語学、日本文学のみならず初等教育での幅広い教科の学びを基盤に、文化および社会についての幅広い知識と見識を養い、国語教育を通して日本や世界が直面している地球規模の課題を考察できる能力・技能を育成する。そのために、国語および日本語に関する幅広い専門知識とともに、それらを他の教科・まなびと関係づけながら自分事として考察する体験を積み、主体的・対話的な学びの中で自己教育力を高めていく。

これらの養成課程を通して生徒一人ひとりを大切に、共に歩み、人からも仕事からも常に積極的に学び続ける人間性豊かで指導力の高い国語科教員の養成につなげていく。

#### ■「中学校教諭一種免許状（数学）」

これからの中学校における数学教育には、数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力は勿論、知識基盤社会における必須の能力として論理的に考察し、情報機器を活用しながら数学を使いこなしていく素養をもった人材の養成が必要となる。そこで本学科では、初等教員養成課程で培った幅広い知識を活かしながら数学への興味を引くことができる人材育成を目的とする。具体的には、学修を通して数学の基礎知識、計算力、応用力を身につけるとともに、国語・社会・理科はもちろんのこと様々な教科や各分野の中で論理的に考察する際に、数学がどのように応用されているかを知り、中学生の数学に対する興味を引く授業ができる教員の養成を行う。

#### ■「高等学校教諭一種免許状（数学）」

高等学校学習指導要領「数学」では「数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数

学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う」という目標が設定されている。

初等教育学科では、開設科目の履修を通して、数学的な表現方法、考察方法、論理的思考方法を修得し、事象の数学化、数学的解釈、数学的处理をする技能を養成する。また、具体的な課題への応用によって問題解決の過程や数学の意義を理解し、市民社会に求められる科学的な素養と数学的な論理思考を結びつけた教育観を涵養し、それを児童・生徒と共有可能な教員を養成する。

#### ■「中学校教諭一種免許状（保健体育）」

保健体育科内容領域の専門知識と技能を基礎科目、専門科目、自由科目の受講を通して習得し、学生個々の問題意識に即した柔軟な科目選択により、学生独自の教育力の向上を目指すとともに、それを教育実践という文脈の中で再構築し、授業へと結びつけることの出来る教科教育の力、そして生徒の発達段階・興味関心や今日の社会状況から派生する様々なスポーツ・健康の今日的課題に対しても柔軟に対応できる実践力の素地を形成することを目指す。

具体的には、学習指導要領で示されている「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を生徒に対する確に習得させることができる教員を養成するために、身体の仕組みについて医学的見地から理解を深めるとともに、健康と体力の科学的理解を深め、健康体力向上のための具体的方法についての知識と技能を習得する。

#### ■「高等学校教諭一種免許状（保健体育）」

学習指導要領で示されている「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力」を生徒に対する確に習得させることができる教員を養成するために、スポーツ健康科学の観点から、身体の仕組みと働きについて医科学的見地から理解を深めるとともに、健康問題やスポーツ障害に関する医科学の諸成果を活用する具体的方法についての知識と技能を習得する。

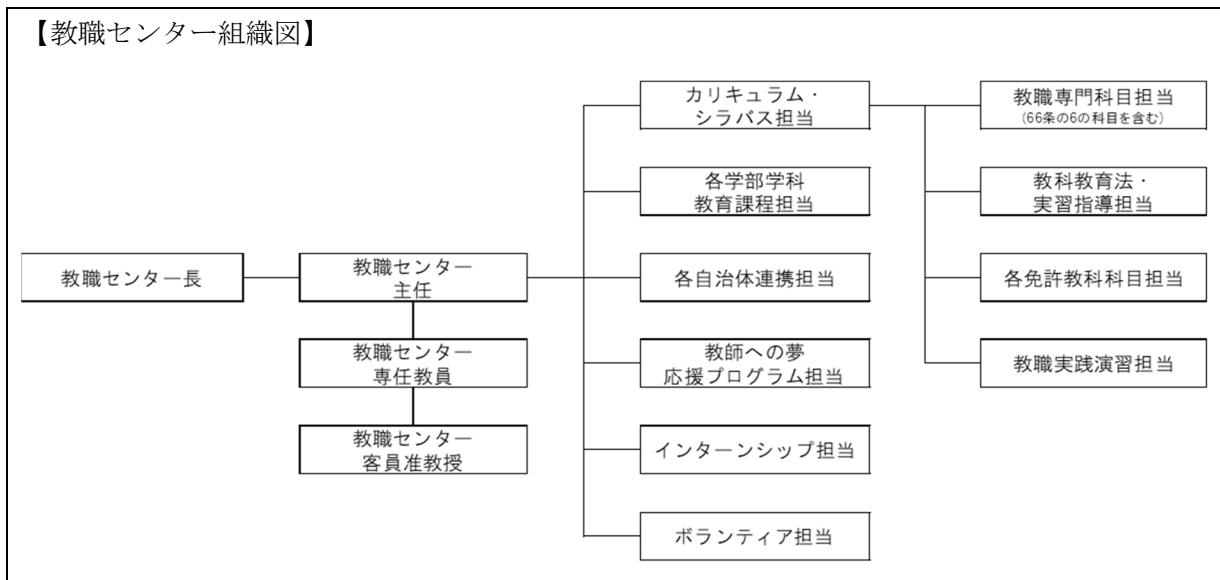
## 様式第7号イ

## I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

## (1) 各組織の概要

組織名称：	教職センター
目的：	各学部・学科等と密接な協力のもと、本学の教職課程の円滑かつ効果的な実施により教員および保育士の養成の目標を達成することを目的とする。
責任者：	教職センター長
構成員(役職・人数)：	教職センター長 1名 教職センター主任 1名 専任教員 4名 兼任教員 5名 非常勤教員 6名
運営方法：	17名の構成員からなる組織を分掌し次の事業を行っている。 (1) カリキュラムに関すること (2) 自己点検・評価に関すること (3) 教育実習および保育実習(調整・事務含む)に関すること (4) 教職履修カルテに関すること (5) 教育ボランティアおよび福祉ボランティアに関すること (6) 教員採用選考試験に関すること (7) 教職に関わる研究に関すること (8) その他センターの目的達成のために必要と認められる事業(就職支援) なお、上記事業は、設置している八王子キャンパス教職課程担当者会議で確認・協議し取り組んでいる。(本会議は教職センターが運営)

## (2) (1) で記載した個々の組織の関係図



## II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

## (1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

本学では、教職大学院を平成21年度に開設し、東京都教育委員会・神奈川県教育委員会と協定を締結し、管理候補者及び現職教員の受入を行っている。  
東京都教育委員会とは、「東京都教育委員会と教職大学院との連携に関わる協議会委員」に研究

## 様式第7号イ

科長が就任し、東京都における教員養成について意見交換している。

教職センターでは東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会と連携し各教育委員会事業に協力している。

また、教職センター事業について各教育委員会から協力を得るとともに、教員養成について意見交換している。

なお、学校現場の意見聴取等は教育実習訪問時に行い、八王子キャンパス教職課程担当者会議において情報共有を図っている。

## (2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

## ①

取組名称： 教育ボランティア

連携先の調整方法： 学生がボランティア先を探し、各自申し込みを行う。また、大学あてに募集要項などが届いた場合は、掲示にて学生へ周知し、各自申し込みを行う。大学からの申し込みが必要な場合は教務課、教職センターにて手続きを行う。  
教育ボランティアガイダンスを受講し所定の手続きを行うことでボランティア活動に従事することができる。

具体的な内容： 教育活動を支援（補助）する活動： 図書を読み聞かせ、授業の補助、補習授業の補助指導、事務作業の補助、部活動の技術指導、生徒指導の補助指導、特別の支援を要する児童・生徒の補助指導、外国につながる児童・生徒の補助指導、学校行事への参加、登下校の安全指導など

## ②

取組名称： 学校インターンシップ

連携先の調整方法： 教務課から各教育委員会へ希望学生の派遣依頼。  
提携外の自治体等への希望がある場合は、学生からの申し出により大学（教務課）からの申し込み手続きを行う場合がある。

具体的な内容： 提携している教育委員会（八王子市・多摩市・立川市・相模原市・川崎市・座間市）から、小学校中学校の児童生徒の学校生活、学習活動を支援する活動を教職課程履修者の3年生以上に限定して実施している。なお、規程に基づき決められた時間以上の活動、事前事後指導の出席、中間報告会の実施、レポート等の提出をした学生には、「学校インターンシップⅠ・Ⅱ」として、各2単位（最大4単位）を付与している。

## Ⅲ. 教職指導の状況

教員免許状取得希望者については、第1年次の入学当初から、履修に関する指導を行っている。履修指導では、教職に就くと言うことは、どのようなことか、教員の職務内容、教員に求められる資質などのほか、免許状取得の為の科目履修の方法等を指導している。

## 様式第7号イ

なお、教職課程履修科目において各年次に応じた教職指導を行っている。

1年次	教職課程新規履修者ガイダンス、教職課程新規履修者申込時の教職に係る確認と助言、教職履修カルテ説明受講及び確認テスト受験、「教職論」履修
2年次	介護体験申込ガイダンス、介護体験申込時の教職に係る確認と助言、学部・学科における教育実習要件の確認と教職に係る指導・助言、教職履修カルテ確認と教職に係る指導・助言
3年次	教育実習申込ガイダンス、教育実習申込時の教職に係る確認と助言、介護等体験履修、学部・学科における教育実習要件の確認と指導・助言、教育実習演習（事前指導）履修、「教育実践力向上 CBT【Computer Based Testing】」受検（事前学修を含む）、教育実習ガイダンス出席
4年次	教育実習（事後指導含む）履修、教職実践演習履修（教職履修カルテ確認と教職に係る指導・助言）

このほか教職センターにおいては、随時、履修に関する相談を行い、個々の学生の相談に応じている。

## 様式第7号ウ

## ＜初等教育学科＞（認定課程：中一種免（国語））

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教職論」など教職関係科目によって、教職の意義や各教科・道徳・特別活動等の指導法など学習指導の基礎を理解する。</li> <li>・「教育原理」を中心に、教育の理念・歴史など教育の全体像を概括的に理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員免許取得のための講義の履修を優先するため、中学校国語免許取得のための講座は設置しない。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の発達の段階に応じた学習指導の在り方、就学前教育から高等教育までを含んだ日本における学校教育制度、総合的な学習の時間や特別活動の指導法、道徳教育に関する理解と指導法、生徒指導や進路指導の在り方など、教職に関する基礎的な知識や技能を習得する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員免許取得のための講座の履修を優先するため、中学校国語免許取得のための講座は設置しない。</li> </ul>
2年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の意義と変遷を踏まえ、教育課程の意義と学校における教育課程の編成の現状や課題、学級担任や教科担当者の役割などについて理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学及び日本文学の基本的な内容について理解する。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育におけるICT活用の意義と方法を理解し、マルチメディア表現等の専門的知識・技術の基礎を身につける。</li> <li>・実際にICTを活用した授業の指導計画が作成できる。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学及び日本文学の基本的な内容について理解を深めるとともに、近年の研究の動向を踏まえて中学校国語にかかわる日本語学及び日本文学の指導の有り方を考察する。</li> </ul>
3年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談に関する基本的な知識や技能を習得するとともに、特別支援教育の基本的な考え方を理解する。</li> <li>・小学校への教育実習事前指導を通して、実習の意義や実際について理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語文法、日本文学の歴史、古文及び漢文、書写について幅広く学修し、中学校国語科教員としての必要な内容を理解するとともに、中学校における国語科の指導内容の背景となる学問領域との関係を踏まえて教材研究に取り組む。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習生の位置付けや実際の動き方について確実に理解する。</li> <li>・教員採用選考に向けて、教職課程科目で学んだことを習得できるよう努める。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語文法、日本語表現、日本文学の歴史、古文及び漢文、書写についてさらに深く学修し、中学校の国語科教員としての必要な内容を理解するとともに、国語科の背景となる学問領域との関係を踏まえて指導案を作成し、模擬授業として実践できる。</li> </ul>
4年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習中は実習生であることを自覚しつつ、児童生徒からは教員と同様の存在としてみられることを意識する。</li> <li>・教育実習を通して、教員の資質や役割を体感的に理解できるようにする。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学修を通して身につけたことを踏まえ、近代文学の学びをより専門的に学修し、生徒に国語的活動を通してその楽しさや国語の良さを実感できる教材準備ができる。</li> <li>・教育実習での授業実践や研究協議等を通して、生徒の状況に応じた指導内容や方法等の工夫について考察する。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習で得られた成果と課題を改めて整理することができる。</li> <li>・教育実習の体験から、これまで教職課程で学んだ事項を確実に身につけることができる。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学修や教育実習を通して身につけたことを振り返り、これまでの近代文学の学びの専門性をさらに深め、生徒に国語的活動を通して言葉に対する感性及び人間性を涵養し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて指導できる。</li> <li>・国語科の教員として4月から授業ができるよう、中学校国語の年間指導計画等の作成ができる。</li> </ul>

## 様式第7号ウ

## ＜初等教育学科＞（認定課程：高一種免（国語））

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教職論」など教職関係科目によって、教職の意義や各教科・道徳・特別活動等の指導法など学習指導の基礎を理解する。</li> <li>・「教育原理」を中心に、教育の理念・歴史など教育の全体像を概括的に理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員免許取得のための講義の履修を優先するため、高等学校国語免許取得のための講座は設置しない。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の発達の段階に応じた学習指導の在り方、就学前教育から高等教育までを含んだ日本における学校教育制度、総合的な学習の時間や特別活動の指導法、道徳教育に関する理解と指導法、生徒指導や進路指導の在り方など、教職に関する基礎的な知識や技能を習得する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員免許取得のための講座の履修を優先するため、高等学校国語免許取得のための講座は設置しない。</li> </ul>
2年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の意義と変遷を踏まえ、教育課程の意義と学校における教育課程の編成の現状や課題、学級担任や教科担当者の役割などについて理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学及び日本文学の基本的な内容について理解する。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育におけるICT活用の意義と方法を理解し、マルチメディア表現等の専門的知識・技術の基礎を身につける。</li> <li>・実際にICTを活用した授業の指導計画が作成できる。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学及び日本文学の基本的な内容について理解を深めるとともに、近年の研究の動向を踏まえて高等学校国語にかかわる日本語学及び日本文学の指導の有り方を考察する。</li> </ul>
3年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談に関する基本的な知識や技能を習得するとともに、特別支援教育の基本的な考え方を理解する。</li> <li>・小学校への教育実習事前指導を通して、実習の意義や実際について理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語文法、日本文学の歴史、古文及び漢文について幅広く学修し、高等学校国語科教員としての必要な内容を理解するとともに、高等学校における国語科の指導内容の背景となる学問領域との関係を踏まえて教材研究に取り組む。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習生の位置付けや実際の動き方について確実に理解する。</li> <li>・教員採用選考に向けて、教職課程科目で学んだことを習得できるよう努める。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語文法、日本語表現、日本文学の歴史、古文及び漢文についてさらに深く学修し、高等学校の国語科教員としての必要な内容を理解するとともに、国語科の背景となる学問領域との関係を踏まえて指導案を作成し、模擬授業として実践できる。</li> </ul>
4年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習中は実習生であることを自覚しつつ、児童生徒からは教員と同様の存在としてみられることを意識する。</li> <li>・教育実習を通して、教員の資質や役割を体感的に理解できるようにする。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学修を通して身につけたことを踏まえ、近代文学や現代文学の学修を深め、生徒に国語的活動を通してその楽しさや国語の良さを実感できる教材準備ができる。</li> <li>・教育実習での授業実践や研究協議等を通して、生徒の状況に応じた指導内容や方法等の工夫について考察する。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習で得られた成果と課題を改めて整理することができる。</li> <li>・教育実習の体験から、これまで教職課程で学んだ事項を確実に身につけることができる。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学修や教育実習を通して身につけたことを振り返り、これまでの近代文学、現代文学の学修の専門性を継続的に高めつつ、生徒に国語的活動を通して言葉に対する感性及び人間性を涵養し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて指導できる。</li> <li>・国語科の教員として4月から授業ができるよう、高等学校国語の年間指導計画等の作成ができる。</li> </ul>

## 様式第7号ウ

## ＜初等教育学科＞（認定課程：中一種免（数学））

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教職論」など教職関係科目によって、教職の意義や各教科・道徳・特別活動等の指導法など学習指導の基礎を理解する。</li> <li>・「教育原理」を中心に、教育の理念・歴史など教育の全体像を概括的に理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員免許取得のための講義の履修を優先するため、中学校数学免許取得のための講座は設置しない。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の発達の段階に応じた学習指導の在り方、就学前教育から高等教育までを含んだ日本における学校教育制度、総合的な学習の時間や特別活動の指導法、道徳教育に関する理解と指導法、生徒指導や進路指導の在り方など、教職に関する基礎的な知識や技能を習得する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員免許取得のための講座の履修を優先するため、中学校数学免許取得のための講座は設置しない。</li> </ul>
2年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の意義と変遷を踏まえ、教育課程の意義と学校における教育課程の編成の現状や課題、学級担任や教科担当者の役割などについて理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代数学及び解析学の基本的な内容について理解する。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育におけるICT活用の意義と方法を理解し、マルチメディア表現等の専門的知識・技術の基礎を身につける。</li> <li>・実際にICTを活用した授業の指導計画が作成できる。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代数学及び解析学の基本的な内容について理解を深めるとともに、近年の研究の動向を踏まえて中学校数学の代数及び解析学の指導の在り方を考察する。</li> </ul>
3年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談に関する基本的な知識や技能を習得するとともに、特別支援教育の基本的な考え方を理解する。</li> <li>・小学校への教育実習事前指導を通して、実習の意義や実際について理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代数学、幾何学、解析学、統計学、コンピュータについて幅広く学修し、中学校数学科教員としての必要な内容を理解するとともに、中学校における数学科の指導内容の背景となる学問領域との関係を踏まえて教材研究に取り組む。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習生の位置付けや実際の動き方について確実に理解する。</li> <li>・教員採用選考に向けて、教職課程科目で学んだことを習得できるよう努める。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幾何学、解析学、統計学、コンピュータについてさらに深く学修し、中学校の数学科教員としての必要な内容を理解するとともに、数学科の背景となる学問領域との関係を踏まえて指導案を作成し、模擬授業として実践できる。</li> </ul>
4年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習中は実習生であることを自覚しつつ、児童生徒からは教員と同様の存在としてみられることを意識する。</li> <li>・教育実習を通して、教員の資質や役割を体感的に理解できるようにする。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学修を通して身につけたことを踏まえ、生徒に数学的活動を通してその楽しさや数学の良さを実感できる教材準備ができる。</li> <li>・教育実習での授業実践や研究協議等を通して、生徒の状況に応じた指導内容や方法等の工夫について考察する。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習で得られた成果と課題を改めて整理することができる。</li> <li>・教育実習の体験から、これまで教職課程で学んだ事項を確実に身につけることができる。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学修や教育実習を通して身につけたことを振り返り、生徒に数学的活動を通して事象を数理的に考察し表現する力やそれらを活用して考えたり判断する力を指導できる。</li> <li>・数学科の教員として4月から授業ができるよう、中学校数学の年間指導計画等の作成ができる。</li> </ul>

## 様式第7号ウ

## ＜初等教育学科＞（認定課程：高一種免（数学））

## (1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教職論」など教職関係科目によって、教職の意義や各教科・道徳・特別活動等の指導法など学習指導の基礎を理解する。</li> <li>・「教育原理」を中心に、教育の理念・歴史など教育の全体像を概括的に理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員免許取得のための講義の履修を優先するため、高等学校数学免許取得のための講座は設置しない。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の発達の段階に応じた学習指導の在り方、就学前教育から高等教育までを含んだ日本における学校教育制度、総合的な学習の時間や特別活動の指導法、道徳教育に関する理解と指導法、生徒指導や進路指導の在り方など、教職に関する基礎的な知識や技能を習得する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員免許取得のための講座の履修を優先するため、高等学校数学免許取得のための講座は設置しない。</li> </ul>
2年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の意義と変遷を踏まえ、教育課程の意義と学校における教育課程の編成の現状や課題、学級担任や教科担当者の役割などについて理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代数学及び解析学の基本的な内容について理解する。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育におけるICT活用の意義と方法を理解し、マルチメディア表現等の専門的知識・技術の基礎を身につける。</li> <li>・実際にICTを活用した授業の指導計画が作成できる。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代数学及び解析学の基本的な内容について理解を深めるとともに、近年の研究の動向を踏まえて高等学校数学の代数及び解析学の指導の在り方を考察する。</li> </ul>
3年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談に関する基本的な知識や技能を習得するとともに、特別支援教育の基本的な考え方を理解する。</li> <li>・小学校への教育実習事前指導を通して、実習の意義や実際について理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代数学、幾何学、解析学、統計学、コンピュータについて幅広く学修し、高等学校数学科教員としての必要な内容を理解するとともに、高等学校における数学科の指導内容の背景となる学問領域との関係を踏まえて教材研究に取り組む。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習生の位置付けや実際の動き方について確実に理解する。</li> <li>・教員採用選考に向けて、教職課程科目で学んだことを習得できるよう努める。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幾何学、解析学、統計学、コンピュータについてさらに深く学修し、高等学校の数学科教員としての必要な内容を理解するとともに、数学科の背景となる学問領域との関係を踏まえて指導案を作成し、模擬授業として実践できる。</li> </ul>
4年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習中は実習生であることを自覚しつつ、児童生徒からは教員と同様の存在としてみられることを意識する。</li> <li>・教育実習を通して、教員の資質や役割を体感的に理解できるようにする。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学修を通して身につけたことを踏まえ、生徒に数学的活動を通してその楽しさや数学の良さを実感できる教材準備ができる。</li> <li>・教育実習での授業実践や研究協議等を通して、生徒の状況に応じた指導内容や方法等の工夫について考察する。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習で得られた成果と課題を改めて整理することができる。</li> <li>・教育実習の体験から、これまで教職課程で学んだ事項を確実に身につけることができる。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学修や教育実習を通して身につけたことを振り返り、生徒に数学的活動を通して事象を数理的に考察し表現する力やそれらを活用して考えたり判断する力を指導できる。</li> <li>・数学科の教員として4月から授業ができるよう、高等学校数学の年間指導計画等の作成ができる。</li> </ul>

## 様式第7号ウ

## ＜初等教育学科＞（認定課程：中一種免（保健体育））

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教職論」など教職関係科目によって、教職の意義や各教科・道徳・特別活動等の指導法など学習指導の基礎を理解する。</li> <li>・「教育原理」を中心に、教育の理念・歴史など教育の全体像を概括的に理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員免許取得のための講義の履修を優先するため、中学校保健体育免許取得のための講座は設置しない。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の発達の段階に応じた学習指導の在り方、就学前教育から高等教育までを含んだ日本における学校教育制度、総合的な学習の時間や特別活動の指導法、道徳教育に関する理解と指導法、生徒指導や進路指導の在り方など、教職に関する基礎的な知識や技能を習得する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科教育法Ⅰにおいて中学校保健体育の授業づくりの基本と安全指導を含めた指導上の留意事項について学ぶ。</li> </ul>
2年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の意義と変遷を踏まえ、教育課程の意義と学校における教育課程の編成の現状や課題、学級担任や教科担当者の役割などについて理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科教育法Ⅱにおいて体育実技で学んだ内容と関連づけながら学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。また、体育原理について学ぶ。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育におけるICT活用の意義と方法を理解し、マルチメディア表現等の専門的知識・技術の基礎を身につける。</li> <li>・実際にICTを活用した授業の指導計画が作成できる。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科教育法Ⅲにおいて高等学校保健体育授業の目標、内容、方法について学ぶ。また、スポーツ方法実習について学ぶ。</li> </ul>
3年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談に関する基本的な知識や技能を習得するとともに、特別支援教育の基本的な考え方を理解する。</li> <li>・小学校への教育実習事前指導を通して、実習の意義や実際について理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科教育法Ⅳにおいて体育実技で学んだ内容と関連づけながら学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。また、各種目のスポーツ方法実習および体育経営管理学、生理学（運動生理学を含む）などについて学ぶ。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習生の位置付けや実際の動き方について確実に理解する。</li> <li>・教員採用選考に向けて、教職課程科目で学んだことを習得できるよう努める。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習事前指導において、保健体育科教育法で学んだ成果や課題を整理し、質の高い模擬授業を実施する。また、衛生学・公衆衛生学、学校保健、小児保健など、保健体育科教員に必要な専門性を獲得する。</li> </ul>
4年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習中は実習生であることを自覚しつつ、児童生徒からは教員と同様の存在としてみられることを意識する。</li> <li>・教育実習を通して、教員の資質や役割を体感的に理解できるようにする。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んできた運動・スポーツ科学を踏まえ、その理論を体育授業でどのように活かすのかについて深化、統合する。</li> <li>・教育実習での授業実践や研究協議等を通して、生徒の状況に応じた指導内容や方法等の工夫について考察する。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習で得られた成果と課題を改めて整理することができる。</li> <li>・教育実習の体験から、これまで教職課程で学んだ事項を確実に身につけることができる。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職実践演習で、教科教育、教科専門について改めて学ぶことで、中学校保健体育教員としての自覚を涵養するとともに、これまでの学びの成果と課題を整理する。</li> <li>・保健体育科の教員として授業ができるよう、中学校保健体育の年間指導計画等の作成ができる。</li> </ul>

## 様式第7号ウ

## ＜初等教育学科＞（認定課程：高一種免（保健体育））

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教職論」など教職関係科目によって、教職の意義や各教科・道徳・特別活動等の指導法など学習指導の基礎を理解する。</li> <li>・「教育原理」を中心に、教育の理念・歴史など教育の全体像を概括的に理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員免許取得のための講座の履修を優先するため、高等学校保健体育免許取得のための講座は設置しない。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の発達の段階に応じた学習指導の在り方、就学前教育から高等教育までを含んだ日本における学校教育制度、総合的な学習の時間や特別活動の指導法、道徳教育に関する理解と指導法、生徒指導や進路指導の在り方など、教職に関する基礎的な知識や技能を習得する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科教育法Ⅰにおいて中学校保健体育の授業づくりの基本と安全指導を含めた指導上の留意事項について学ぶ。</li> </ul>
2年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の意義と変遷を踏まえ、教育課程の意義と学校における教育課程の編成の現状や課題、学級担任や教科担当者の役割などについて理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科教育法Ⅱにおいて体育実技で学んだ内容と関連づけながら学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。また、体育原理について学ぶ。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育におけるICT活用の意義と方法を理解し、マルチメディア表現等の専門的知識・技術の基礎を身につける。</li> <li>・実際にICTを活用した授業の指導計画が作成できる。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科教育法Ⅲにおいて高等学校保健体育授業の目標、内容、方法について学ぶ。また、スポーツ方法実習について学ぶ。</li> </ul>
3年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談に関する基本的な知識や技能を習得するとともに、特別支援教育の基本的な考え方を理解する。</li> <li>・小学校への教育実習事前指導を通して、実習の意義や実際について理解する。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科教育法Ⅳにおいて体育実技で学んだ内容と関連づけながら学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。また、各種目のスポーツ方法実習および体育経営管理学、生理学（運動生理学を含む）などについて学ぶ。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習生の位置付けや実際の動き方について確実に理解する。</li> <li>・教員採用選考に向けて、教職課程科目で学んだことを習得できるよう努める。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習事前指導において、保健体育科教育法で学んだ成果や課題を整理し、質の高い模擬授業を実施する。また、衛生学・公衆衛生学、学校保健、小児保健など、保健体育科教員に必要な専門性を獲得する。</li> </ul>
4年次	前期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習中は実習生であることを自覚しつつ、児童生徒からは教員と同様の存在としてみられることを意識する。</li> <li>・教育実習を通して、教員の資質や役割を体感的に理解できるようにする。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んできた運動・スポーツ科学を踏まえ、その理論を体育授業でどのように活かすのかについて深化、統合する。</li> <li>・教育実習での授業実践や研究協議等を通して、生徒の状況に応じた指導内容や方法等の工夫について考察する。</li> </ul>
	後期	<p>＜教職に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習で得られた成果と課題を改めて整理することができる。</li> <li>・教育実習の体験から、これまで教職課程で学んだ事項を確実に身につけることができる。</li> </ul> <p>＜教科に関する科目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職実践演習で、教科教育、教科専門について改めて学ぶことで、高等学校保健体育教員としての自覚を涵養するとともに、これまでの学びの成果と課題を整理する。</li> <li>・保健体育科の教員として授業ができるよう、高等学校保健体育の年間指導計画等の作成ができる。</li> </ul>

様式第7号ウ（教諭）

&lt;初等教育学科&gt;（認定課程：中一種免(国語)）

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論			日本国憲法	教育学入門Ⅰ
		教育原理			スポーツ実技Ⅰ	国語科概論
					教育情報リテラシー	算数科概論
						生活科概論
	後期	心身の発達と学習過程			スポーツ実技Ⅱ	教育学入門Ⅱ
		教育の制度と経営				社会科概論
		総合的な学習の時間および特別活動の指導法				理科概論
		道徳教育の理論と指導法				
		生徒指導・進路指導論				
2年次	前期	教育課程論	日本語学概論Ⅰ		現代英語Ⅲ	教育研究リテラシーⅠ
			日本文学概論Ⅰ			教科指導法(国語)
						教科指導法(算数)
						教科指導法(生活)
						教科指導法(図画工作)
						教科指導法(体育)
						介護等体験実習
	後期	ICT活用と教育の方法及び技術	日本語学概論Ⅱ		現代英語Ⅳ	教育研究リテラシーⅡ
			日本文学概論Ⅱ			教科指導法(社会)
						教科指導法(理科)
						教科指導法(音楽)
						教科指導法(家庭)
						教科指導法(英語)
						介護等体験実習
3年次	前期	教育相談	日本文学史Ⅰ			教育学演習Ⅰ
		特別支援教育基礎論	古典文学Ⅰ			初等教育実習演習Ⅰ(事前指導)
		国語科教育法Ⅰ	漢文Ⅰ			
		国語科教育法Ⅲ	書写Ⅰ			
	後期	国語科教育法Ⅱ	日本文学史Ⅱ			教育学演習Ⅱ
		国語科教育法Ⅳ	漢文Ⅱ			初等教育実習Ⅰ(事後指導を含む)
	中等教育実習演習(事前指導)	書写Ⅱ				
4年次	前期	中等教育実習Ⅰ(事後指導を含む)				卒業研究Ⅰ
	後期	教職実践演習				卒業研究Ⅱ
		中等教育実習Ⅰ(事後指導を含む)				

様式第7号ウ（教諭）

&lt;初等教育学科&gt;（認定課程：高一種免（国語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論			日本国憲法	教育学入門Ⅰ
		教育原理			スポーツ実技Ⅰ	国語科概論
					教育情報リテラシー	算数科概論
	後期					生活科概論
		心身の発達と学習過程			スポーツ実技Ⅱ	教育学入門Ⅱ
		教育の制度と経営				社会科概論
		総合的な学習の時間および特別活動の指導法				理科概論
生徒指導・進路指導論						
2年次	前期	教育課程論	日本語学概論Ⅰ		現代英語Ⅲ	教育研究リテラシーⅠ
			日本文学概論Ⅰ			教科指導法(国語)
						教科指導法(算数)
						教科指導法(生活)
						教科指導法(図画工作)
	後期					教科指導法(体育)
		ICT活用と教育の方法及び技術	日本語学概論Ⅱ		現代英語Ⅳ	教育研究リテラシーⅡ
			日本文学概論Ⅱ			教科指導法(社会)
						教科指導法(理科)
						教科指導法(音楽)
						教科指導法(家庭)
3年次	前期	教育相談	日本語表現論Ⅰ			教育学演習Ⅰ
		特別支援教育基礎論	日本文学史Ⅰ			初等教育実習演習Ⅰ(事前指導)
		国語科教育法Ⅰ	古典文学Ⅰ			
		国語科教育法Ⅲ	漢文Ⅰ			
	後期	国語科教育法Ⅱ	日本語表現論Ⅱ			教育学演習Ⅱ
		国語科教育法Ⅳ	日本文学史Ⅱ			初等教育実習Ⅰ(事後指導を含む)
		中等教育実習演習(事前指導)	古典文学Ⅱ			
			漢文Ⅱ			
4年次	前期		近代文学Ⅱ			
		中等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)				卒業研究Ⅰ
	後期	教職実践演習				卒業研究Ⅱ
		中等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)				

様式第7号ウ（教諭）

&lt;初等教育学科&gt;（認定課程：中一種免（数学））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論			日本国憲法	教育学入門Ⅰ
		教育原理			スポーツ実技Ⅰ	国語科概論
					教育情報リテラシー	算数科概論
						生活科概論
	後期	心身の発達と学習過程			スポーツ実技Ⅱ	教育学入門Ⅱ
		教育の制度と経営				社会科概論
		総合的な学習の時間および特別活動の指導法				理科概論
		道徳教育の理論と指導法				
	生徒指導・進路指導論					
2年次	前期	教育課程論	代数学Ⅰ		現代英語Ⅲ	教育研究リテラシーⅠ
			解析学Ⅰ			教科指導法(国語)
						教科指導法(算数)
						教科指導法(生活)
						教科指導法(図画工作)
						教科指導法(体育)
						介護等体験実習
	後期	ICT活用と教育の方法及び技術	代数学Ⅱ		現代英語Ⅳ	教育研究リテラシーⅡ
			解析学Ⅱ			教科指導法(社会)
						教科指導法(理科)
						教科指導法(音楽)
						教科指導法(家庭)
						教科指導法(英語)
						介護等体験実習
3年次	前期	教育相談	代数学Ⅲ			教育学演習Ⅰ
		特別支援教育基礎論	幾何学Ⅰ			初等教育実習演習Ⅰ(事前指導)
		数学科教育法Ⅰ	解析学Ⅲ			
		数学科教育法Ⅲ	統計学Ⅰ			
		データ処理演習Ⅰ				
	後期	数学科教育法Ⅱ	幾何学Ⅱ			教育学演習Ⅱ
		数学科教育法Ⅳ	確率論			初等教育実習Ⅰ(事後指導を含む)
		中等教育実習演習(事前指導)	統計学Ⅱ			
		データ処理演習Ⅱ				
4年次	前期	中等教育実習Ⅰ(事後指導を含む)				卒業研究Ⅰ
	後期	教職実践演習				卒業研究Ⅱ
		中等教育実習Ⅰ(事後指導を含む)				

様式第7号ウ（教諭）

&lt;初等教育学科&gt;（認定課程：高一種免（数学））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論			日本国憲法	教育学入門Ⅰ
		教育原理			スポーツ実技Ⅰ	国語科概論
					教育情報リテラシー	算数科概論
	後期					生活科概論
		心身の発達と学習過程			スポーツ実技Ⅱ	教育学入門Ⅱ
		教育の制度と経営				社会科概論
		総合的な学習の時間および特別活動の指導法				理科概論
	生徒指導・進路指導論					
2年次	前期	教育課程論	代数学Ⅰ		現代英語Ⅲ	教育研究リテラシーⅠ
			解析学Ⅰ			教科指導法(国語)
						教科指導法(算数)
						教科指導法(生活)
						教科指導法(図画工作)
						教科指導法(体育)
	後期	ICT活用と教育の方法及び技術	代数学Ⅱ		現代英語Ⅳ	教育研究リテラシーⅡ
			解析学Ⅱ			教科指導法(社会)
						教科指導法(理科)
						教科指導法(音楽)
						教科指導法(家庭)
				教科指導法(英語)		
3年次	前期	教育相談	代数学Ⅲ			教育学演習Ⅰ
		特別支援教育基礎論	幾何学Ⅰ			初等教育実習Ⅰ演習(事前指導)
		数学科教育法Ⅰ	解析学Ⅲ			
		数学科教育法Ⅲ	統計学Ⅰ			
		データ処理演習Ⅰ				
	後期	数学科教育法Ⅱ	幾何学Ⅱ			教育学演習Ⅱ
		数学科教育法Ⅳ	確率論			初等教育実習Ⅰ(事後指導を含む)
		中等教育実習演習(事前指導)	統計学Ⅱ			
		データ処理演習Ⅱ				
4年次	前期	中等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)				卒業研究Ⅰ
	後期	教職実践演習				卒業研究Ⅱ
		中等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)				

様式第7号ウ（教諭）

＜初等教育学科＞（認定課程：中一種免（保健体育））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論			日本国憲法	教育学入門Ⅰ
		教育原理			教育情報リテラシー	国語科概論
						算数科概論
						生活科概論
	後期	心身の発達と学習過程				教育学入門Ⅱ
		教育の制度と経営				社会科概論
		総合的な学習の時間および特別活動の指導法				理科概論
		道德教育の理論と指導法				
		生徒指導・進路指導論				
		保健体育科教育法Ⅰ				
2年次	前期	教育課程論	スポーツ方法実習(陸上競技)		現代英語Ⅲ	教育研究リテラシーⅠ
		保健体育科教育法Ⅱ	スポーツ方法実習(ダンス・体づくり運動)			教科指導法(国語)
			体育原理			教科指導法(算数)
						教科指導法(生活)
						教科指導法(図画工作)
						教科指導法(体育)
						介護等体験実習
	後期	ICT活用と教育の方法及び技術	スポーツ心理学		現代英語Ⅳ	教育研究リテラシーⅡ
		保健体育科教育法Ⅲ				教科指導法(社会)
						教科指導法(理科)
						教科指導法(音楽)
						教科指導法(家庭)
						教科指導法(英語)
						介護等体験実習
3年次	前期	教育相談	スポーツ方法実習(体操)		スポーツ実技Ⅰ	教育学演習Ⅰ
		特別支援教育基礎論	スポーツ方法実習(水泳)			初等教育実習演習Ⅰ(事前指導)
		保健体育科教育法Ⅳ	スポーツ方法実習(柔道)			
			スポーツ方法実習(バレーボール)			
			体育経営管理学			
			スポーツ史			
			生理学(運動生理学を含む)			
	後期	中等教育実習演習(事前指導)	スポーツ社会学		スポーツ実技Ⅱ	教育学演習Ⅱ
			スポーツ運動学(運動方法学を含む)			初等教育実習Ⅰ(事後指導を含む)
			衛生学・公衆衛生学			
			小児保健			
			学校保健学(学校安全を含む)			
			学校精神保健			
	救急対応Ⅰ					
4年次	前期	中等教育実習Ⅰ(事後指導を含む)			卒業研究Ⅰ	
	後期	教職実践演習			卒業研究Ⅱ	
		中等教育実習Ⅰ(事後指導を含む)				

様式第7号ウ（教諭）

＜初等教育学科＞（認定課程：高一種免（保健体育））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論			日本国憲法	教育学入門Ⅰ
		教育原理			教育情報リテラシー	国語科概論
						算数科概論
						生活科概論
	後期	心身の発達と学習過程				教育学入門Ⅱ
		教育の制度と経営				社会科概論
		総合的な学習の時間および特別活動の指導法				理科概論
		生徒指導・進路指導論				
		保健体育科教育法Ⅰ				
2年次	前期	教育課程論	スポーツ方法実習(陸上競技)		現代英語Ⅲ	教育研究リテラシーⅠ
		保健体育科教育法Ⅱ	スポーツ方法実習(ダンス・体づくり運動)			教科指導法(国語)
			体育原理			教科指導法(算数)
						教科指導法(生活)
						教科指導法(図画工作)
						教科指導法(体育)
	後期	ICT活用と教育の方法及び技術	スポーツ心理学		現代英語Ⅳ	教育研究リテラシーⅡ
		保健体育科教育法Ⅲ				教科指導法(社会)
						教科指導法(理科)
						教科指導法(音楽)
						教科指導法(家庭)
						教科指導法(英語)
3年次	前期	教育相談	スポーツ方法実習(体操)		スポーツ実技Ⅰ	教育学演習Ⅰ
		特別支援教育基礎論	スポーツ方法実習(水泳)			初等教育実習演習Ⅰ(事前指導)
		保健体育科教育法Ⅳ	スポーツ方法実習(柔道)			
			スポーツ方法実習(バレーボール)			
			体育経営管理学			
			スポーツ史			
	後期	中等教育実習演習(事前指導)	スポーツ社会学		スポーツ実技Ⅱ	教育学演習Ⅱ
			スポーツ運動学(運動方法を含む)			初等教育実習Ⅰ(事後指導を含む)
			衛生学・公衆衛生学			
			小児保健			
			学校保健学(学校安全を含む)			
			学校精神保健			
		救急対応Ⅰ				
4年次	前期	中等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)				卒業研究Ⅰ
	後期	教職実践演習				卒業研究Ⅱ
		中等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)				